



Chrysanthemum blooms

# 菊の花ひらく

一枚一枚の花びらに思いを込めて――

現在は年中見かける花になりましたが、本来は秋の花です。一年の終わりの時期に花を咲かせ、寒い冬を耐え忍び、春には新芽を芽吹かせます。私たちの身近にあり、市の花としても親しまれてきた菊。その花びら一枚一枚に思いを込めて、感動を届けている人々がいます。

国花の一つである菊。奈良時代、中国から薬草として渡来したのが日本の菊文化の始まりといわれています。平安時代には菊を愛でる文化が浸透し、江戸時代に入ると各地で菊の栽培が行われるようになりました。

## Hot Information 市税の延滞金の取り扱いについて報告します

広報きくち2月号に掲載した「市税延滞金の取り扱いの不手際」について、さらに調査が進みましたので報告します。

9月3日現在、調査対象件数31,131件のうち、29,862件(84.43%)の調査を終了しました。主な内容は以下のとおりです。今後もさらに調査を進め、課題を検証し、徴収すべき延滞金については適正に収納していきます。調査経過は随時報告します。 菊池市長 江頭 実

- ◆調査対象内容
    - ・対象内容 本税が完納または一部納付になっているが、延滞金が未納となっているもの。
    - ・対象期間 平成22年4月1日～平成26年5月31日(5年間)
    - ・対象件数 31,131件(納期件数)
    - ・対象者数 4,935人
    - ・対象金額 237,776,478円
  - ◆調査結果状況(29,862件分)
    - ・法令などによる減免が認められているもの：8,626件(27.7%)
    - ・電算システムや事務取扱上の理由で、台帳整理が必要なもの：6,305件(20.3%) ※例：領収日からシステム収納日までの期間に、延滞金が加算されたものなど。
    - ・本税に滞納があるため本税完納後に、減免が徴収か判断するもの：11,149件(35.8%)
    - ・詳細調査中で一部徴収できる可能性があるもの：3,579件(11.5%)
    - ・徴収可と判断し、既に催告しているもの：203件(0.7%)
- 問い合わせ先 税務課徴税係 ☎0968(25)7208

9月末の人の動き	
人口	対前月比
人口：50,092人	-36
男性：24,081人	-12
女性：26,011人	-24
世帯：18,632世帯	26
年齢別人口	
0歳～14歳：6,631人	13%
15歳～64歳：28,347人	57%
65歳以上：15,114人	30%

今月の表紙 10月の秋の夜長。歴史公園鞠智城で、雲一つない満天の星空を撮影しました。鞠智城は、東アジア情勢が緊迫した7世紀後半、大和朝廷が築いた山城。1300年前、ここで暮らしていた防人たちと同じ星を見ていると思うと、歴史のロマンを駆り立てられました。



## Contents ~今月号の掲載項目~

- 3 特集
  - 7 菊の花ひらく
- 8 健康だより
  - インフルエンザを予防しましょう!  
結核健診(地区巡回)を実施します/12月1日は世界エイズデーです/歯ッピーキッズ
- 10 第3セクターの経営状況を公表します
- 12 社会を明るくする運動 高校生の部優秀作文
- 13 国民年金情報
- 14 文芸きくち
- 15 図書だより
- 16 シリーズ菊池遺産/人権・同和教育シリーズ
- 17 菊池夢美術館情報/わいふ一番館だより  
ふるさと緑の便り 菊池グリーンツーリズム  
韓国発見シリーズ こんにちは金です
- 18 地域おこし協力隊を紹介! /シリーズ菊池の企業
- 19 菊池っ子だより
- 20 情報つう
  - ▼お知らせ  
11月は児童虐待防止推進月間です/森林の土地の取得や立木伐採には届出が必要です/秋期狂犬病予防集合注射と犬の登録受け付け/鳥インフルエンザ・口蹄疫の予防をお願いします/ブルーサークルメニューをご存知ですか/11月の「税」の納期限/新しい民生委員・児童委員を紹介します/ごみ出しルールを守ってください/菊池市民広場を再整備します/ことし最後の集団検診を実施します/介護予防ミニ講座/健全化判断比率・資金不足比率(平成26年度決算)を公表します/菊池市の放射線量/旅券(パスポート)9日間で交付します/お詫び
  - ▼募集  
第67回熊田菊池都市マラソン大会/参加者募集/危険物安全週間推進標語募集/平成27年度看護学生募集/保育園で働きたい人の人材バンク登録募集/県民介護講座受講生募集/平成27年度自衛官等募集/入園児を募集します/泗水幼稚園園児募集/第8回・第9回いきいきセミナー参加者募集/地域の学習教室生徒募集/観光案内人養成講座参加者募集/農地を貸したい人・借りたい人を募集しています/いきいき養生塾2015第2期生募集(夜コース)/菊池川流域史跡巡り参加者募集/職業訓練コース受講生募集
  - ▼講演講習・相談  
犬や猫の譲渡前講習会/生物多様性くまもとセミナー/8土業無料合同相談会/ものづくりの人材育成を支援します/もの忘れ相談会/男性介護者のつどい/認知症介護家族のつどい/男女共同参画専門委員相談/納税相談夜間窓口を開設します/こころの相談
  - ▼イベントほか  
菊池市成人式/きくちの灯り「ほの宵まつり」/「宝くじふるさとワクワク劇場 in きくち」開催/第3回わくわく健康セミナー/未就学児のためのすくすく講座/異ジャンルコラボトリニティー/11月14日世界糖尿病デー/第18回居酒屋の里交流会/第7回菊池市民パークゴルフ大会/蜂蜜しぼり体験&蜂蜜を使ったお菓子づくり教室/AR動画の視聴方法
- 29 市民の広場
- 30 TOPICS ~まちの話題~
- 34 市長からのメッセージ/休日在宅当番医
- 35 ハッピーバースデー



■ AR 動画・・・スマートフォンやタブレットのカメラをかざすと紙面上で動く動画を見ることができます。  
視聴方法は 28 ページをご覧ください。

AR



1. 菊池一族の有名な戦いの場面を再現した菊人形の展示ブースが来場者の目を楽しませる 2. 菊池武光公騎馬像の周りに色とりどりの菊の花が来場者の目を楽しませる 3. 大輪菊は菊まつりの代表的な花 4. 最終日は即売会があり大勢の来場者でにぎわう 5.6. 懸崖や盆栽などの力作が並び

菊の花ひらく  
Chrysanthemum blooms

「可愛い子どもを育てるようなもんです」

「一人前に成長したら外へ送り出します。可愛い子どもを育てようようなもんです」  
栽培中の菊を前に笑顔でこう話すのは、菊推委の橋本勉会長です。菊推委の創立は平成2年。市の委託を受け、菊まつりの運営と展示品の制作を行っています。  
展示品の制作期間は約1年。会員は菊まつりが終わるとすぐ、来年に向けての準備を始めます。  
まずは土作りから。良い芽が出るように、冬場には外に出して寒さにさらします。春になると芽が出始め、挿し芽をして数を増やしていきます。大きい花が咲くように鉢を替え、余分な芽を摘んだり薬剤を与えたりしながら大きさを調整。菊まつりの開催期間に一番良い状態で開花するように、手間暇をかけて育てていきます。

鉢一鉢心を込めて

【菊人形・菊まつり】

開催期間 11月15日(日)まで 午前9時～午後5時

ところ 菊池市民広場

※15日は午後1時から閉会式、その後展示菊の即売会を行います。 商工観光課 ☎0968(25)7223



「気温や日照時間など天候に左右されるので、同じやり方でも毎年うまくいくとは限りません。奥が深いですね。10年やってきました、日々勉強です」  
栽培の難しさを楽しそうに説明する橋本さん。菊づくりの醍醐味を次のように語ります。  
「夏の暑さやきつい作業を繰り返している、もうやめようかなと思うときもあります。でも、花が咲いたら辛かったこともきれいなさっぱり忘れてしまうくらいの感動があります。すると『よし、来年も頑張ろう。もっと良い花を咲かせよう。もっと盛大なまつりにしよう』と意欲がわいてくるんです。だからやめられません」  
期間中、会場には色とりどりの大輪菊の鉢植え、懸崖、盆栽、小菊など約3千点が展示されます。まつりの主役とも言える菊人形は、南北朝時代に活躍した菊池一族の歴史的な名シーンを再現。華やかに着飾った17体の人形が来場者を迎えます。  
作品を手がけるのは、菊池市菊まつり推進委員会（以下菊推委）の皆さん。会員たちが手塩にかけて育てた菊の花が、こどもも菊池の秋を鮮やかに彩っています。

県内最大規模の菊の祭典

10月13日～17日は、旧暦で「菊花開」と呼ばれています。菊のつぼみがほころび始め、ゆっくりと花びらを広げていくさまは、深まりゆく秋を知らせてくれます。  
この季節になると、全国各地で菊の品評会が開催されます。本市で毎年11月に開催している「菊人形・菊まつり」もその一つ。前身となる菊の展覧会を合わせると、30年以上続く伝統あるイベントです。毎年、全国から約8万人の見物客が集まる県内最大規模の菊の祭典で、菊池の秋の風物詩にもなっています。

誰もが楽しめるまつりに

来場者を増やすため、子どもたちにもまつりに足を運んでもらおう

次ページへ続く



菊まつり推進委員会  
橋本 勉 会長 (上西寺)



「生きがいと健康づくりになっています」

仕事でけがをして、趣味で続けていたサツキの栽培が難しくなっていました。そんなとき、会員の人に誘ってもらったんです。菊づくりならできるかもと入会することになりました。

鉢と苗を支給してもらい、毎月行われている講習会に参加して作り方を覚えていきました。昨年初めて出展したのですが、審査会で銀賞を受賞したんです。うれしかったですね。次は金賞を目指して頑張ります。

肥料を与えずにたり、早く咲かせすぎたりと失敗もありますが、楽しんで続けています。生きがいや健康づくりにもなりますね。もし菊づくりをしていなかったら、今ごろ寝込んでいたかも知れません。

会員の皆さんは元気な人たちばかり。でも、後継者がいなければいづれ会はなくなってしまいます。地域の人にも声をかけて、仲間づくりもしていきたいです。

2年前に訪れた菊まつりをきっかけに、菊づくりを始めた山本公揮さん。菊づくりをとおして感じていることを聴きました。



山本公揮さん(桜山3)

「伝統ある菊まつりを守り続けてほしい」

昨年から菊人形・菊まつり品評会の審査員を務める福田林広さんに、まつりの魅力と会員の活動について伺いました。

菊人形・菊まつりは県内でも屈指の規模を誇る菊の祭典です。特に菊池一族を模した菊人形は、ここでしか見られない貴重なもの。こうした作品が残っているのは九州でも珍しく、大勢のファンが開催を待ちわびています。会場は広くてアクセスもよく、気温が上がりにくいので菊の環境にも適しています。

作品の出来栄も良く、特に盆栽と懸崖は高い水準にあります。会員の皆さんがこれまで培ってきた技術と経験をうまく共有し引き継いでいけば、さらに全体のレベル向上につながると思います。

会員を増やすためにも、さらに普及活動に力を入れてほしいですね。体験入会などをとおして若い人や関心がある人呼び込み、菊づくりの楽しさを知ってもらうのもいいかもしれません。伝統あるこのまつりを、未永く守り続けてほしいと思います。

笑顔と感動を届けるために

「元氣だったね。昨日は来れなくてごめんね。また明日来るね」  
菊に優しく語りかける樋尻さん。「手をかければかけるだけ応えてくれます。楽しかったですよ。賞を取るのももちろんうれしかったです。だって、一番うれしうれしうれしいのは、喜んでくれるお客さんの顔を見ることです」と菊まつりへの思いを語ります。

会員の皆さんは、菊の花にこの上ない愛情を注いでいます。そして、菊池の伝統と歴史を後世に引き継ぐために、強い使命感を持って菊づくりに励んでいます。

「菊づくりは生きがいづくり」と橋本さんは話します。「昔に比べれば道具も材料も専用のものが増え、育てやすくなりました。初めての人でもすぐに始められるよう、苗と鉢は菊推委で用意します。花が好き人や趣味を始めた人と思ってる人は、ぜひ会場でお話しに声をかけてください」

皆さんも菊まつりの会場へ足を運んでみませんか。そこはいつでも、たくさんの笑顔と感動があたたかさを待っています。

直面する課題

「歳には勝てませんが、菊推委事務局の樋尻和恵さん。菊推委創立メンバーの1人で、30年以上にわたり菊づくりに携わってきたベテランです。

こととして創立27年目を迎える菊推委では、会員数の減少が問題になっていきます。平成6年には113人の会員が在籍していましたが、その数は年々減り続け、今では23人にまで減少。さらに平均年齢は約80歳と、会員の高齢化も進んでいます。

菊まつりに展示する作品は会員が分担して作ります。出品数は昔から変わっていませんが、会員数



樋尻和恵さん(中央通)

菊づくりへの思い

会員数の減少や高齢化など、厳しい状況に置かれている菊推委。は減っているため一人当たりの作業量は増えている状況です。体力も増えてきましたが、「みんな頑張りますよ、正直いつまで続けられるか……」と樋尻さんは心境を吐露します。

それでも、自分磨き、は怠りません。毎月講習会を開き、肥料のやり方や水のやり方などを勉強したり、近況報告をしたりして切磋琢磨を図っています。

菊づくりに関心を持つ人を増やす取り組みにも力を入れ始めました。大人だけでなく、子どもたちの若い世代にも菊に愛着を持ってもらうと、中学校や高校で菊づくりの指導を行っています。

昨年からは菊池北中学校で始まった「一人一鉢菊づくり」では、全校生徒を対象に挿し芽や鉢上げの仕方などを指導。菊池農業高校では数年前から菊人形の作り方を教えています。

「菊の様子をチェックするためには学校を訪ねます。生徒たちとの交流も楽しみの一つです」と樋尻さんは目を細めます。

生徒たちが育てた作品も会場に展示します。「子どもたちと一緒に育てた菊が立派な花を咲かせたら、そらうれしかいですよ。自分で育てた分、子どもたちもきっと感動してくれると思います。大人になってもその感動を忘れず、友達や家族と一緒に菊まつりに足を運んでくれるといいですね」



1.2. 菊池北中での菊の苗づくり。菊推委の会員が丁寧に育て方を教えている 3. 菊池北中では昨年、地域の人と一緒に菊を並べるための台座を製作した 4. 会場には小さな子どもたちの感動する声も響く



菊まつり推進委員会 川口勲造 副会長(村田)

私たちが丁寧に指導します  
菊推委では、菊づくりのベテランが菊の育て方を丁寧に教えています。私自身、入会当初は本気で続ける気はなかったのですが、育て方を学ぶうちに、すっかりはまってしまいました。きっと楽しめますよ。



梁池美智子さん(富)

菊まつりは毎年の楽しみです  
近所の友人を誘って毎年菊まつりに行きます。菊人形はもちろん、普段は見られない手の込んだ作品がいくつも並び、美しさに感動します。作り手の皆さんの努力と思いが伝わってきます。